

山下和洋 社長



昨年2月、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」の乗客乗員のうち、陰性が確認された80歳以上の下船希望者が埼玉県のとくろ大学へ宿泊することとなった。内閣府から「高齢の宿泊者用に介護用品などを提供してもらえないか」との要請が当社へ寄せられ、即座に対応を行った。同時に、今後国内に感染が広がったときに会社としてどうするか、早急に方針を定めなければならぬと強く感じた。

対外的には3月2日に、不要不急の訪問を自粛することや感染対策の徹底、サービスを継続していく方針を文書で案内した。いち早く方針を策定・発信し、初動から組織全体で対応できたと思う。現場も含めて感染対策を徹底し、万が一、社内で感染者が出たとしても事業を継続できるルールや体制が整えられた。また、在宅勤務でも組織と

地域での存在感高める一年に

ヤマシタ

して業務に当たれるように、管理職のマネジメント研修を実施するとともに、在宅勤務手当も設けた。スムーズにリモートワークへ移行できたこともあれば、押印などICT化の余地があると感じた部分もあった。DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みを推進するため、具体的な方法を検討している。

今年は、各営業所が地域でさらに存在感を高めていく年にしたい。地域の実情に沿ったビジョンを営業所ごとに立てることで、ボトムアップで全体の事業戦略を固め、チーム一丸で達成を目指していく。ビジョン策定の中心となる所長やリーダー職の役割がますます高まるため、その役割を実行する上で補助線となる研修に力を入れる。そして地域戦略を実行する現場所員の営業力を強化する研修等も充実させ、当社の人財育成体制をもっとブラッシュアップしていく。また、対応スピードに対するニーズはやはり高い。問合せから納品までの時間を短縮しながら、品質も高める活動を並行して実施することで、当社のサプライチェーンをさらに強化していきたい。